

事業評価において特に優れた事業と認められた事業一覧（平成22年度助成事業）

機構では、毎年度助成事業の評価を行う中で、特筆すべき効果が見られた事業や、独創性がありユニークな事業で、広くご紹介すべきと思われる事業を選び、公表しております。

本年度は、以下の10事業をご紹介します。

次ページ以降は、評価先団体による事業のご紹介、および外部有識者または事務局によるコメント等を掲載しておりますので、ぜひ皆さまの活動のご参考にいただければと思います。

No.	評価先団体	助成事業名	助成区分 (※)	掲載ページ
1	特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会	困窮要介護単身高齢者地域支援拠点設置事業	先進・独創	2
2	特定非営利活動法人 スマイルウェイ	男性介護者用コミュニティとビデオ制作事業	先進・独創	4
3	特定非営利活動法人 こどもサポートネットあいち	「虐待児継続手記集作成と施設の現状考察」事業	先進・独創	6
4	特定非営利活動法人 多摩在宅支援センター円	精神疾患をもつ親とその家族の在り方検討事業	先進・独創	8
5	特定非営利活動法人 フードバンク山梨	食のセーフティネットモデル事業	先進・独創	10
6	フランスベット株式会社	手動車いす自動ブレーキ装置の改良と実用化の事業	先進・独創	12
7	特定非営利活動法人 えがおさんさん	医療的ケアの必要な子どものモデルデイ事業	先進・独創	14
8	特定非営利活動法人 くまもと支援の会	ホームレス等生活支援・配食・サロン事業	先進・独創	16
9	社会福祉法人 秋田市社会福祉協議会	一人暮らし高齢者等への安心キット事業	地域活動	18
10	特定非営利活動法人 キッズドア	困窮家庭でも利用可能な低額学習支援事業	地域活動	20

※ 「助成区分」については、次のとおりです。

- ・「先進・独創」……社会福祉の振興に資する創意工夫ある事業又は全国若しくは広域的な普及等を念頭に施策等を補完若しくは充実させる事業（「先進的・独創的活動支援事業」）
- ・「地域活動」……社会福祉諸制度の対象外のニーズその他地域の様々な福祉ニーズに対応した地域に密着した事業（「地域活動支援事業」）

先進的・独創的活動支援事業（第1次助成分）

助成テーマ：高齢者・障害者が主体的・積極的に活動することができるよう創意工夫を活かした場の提供等を図る事業

特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会

『 困窮要介護単身高齢者地域支援拠点設置事業 』

【助成金額：4,082 千円】

事業概要

平成21年3月に群馬県でおきた「静養ホームたまゆら」火災事故は、身寄りが無く、疾病障害等を抱える高齢の被保護者が、住み慣れた地域で暮らすことが出来ずに都外施設で生活している現状を明らかにしました。そこで、都外施設で暮らしている高齢の被保護者が安定・安心して住み慣れた地域に戻れるような環境作りを進めるため、「サポートセンター」を立ち上げることにしました。

事業の内容

要介護者・認知症等を抱える単身の低所得高齢者が、住み慣れた地域で継続的な在宅生活を送るためのシステムとして、24時間・365日対応の緊急ショートステイ併設「サポートセンター」を昨年設置しました。

現在、サポートセンターを拠点に、単身で在宅生活をしている被保護者への訪問による日常生活支援を実施し、利用者の心身状態に合わせ、個々に応じた社会サービスを提供するための支援計画を福祉事務所等の関係機関と連携しながら作成し、利用者寄り添った支援をしています。今後は、家族的な支援が出来るような新たな社会制度を提案していきたいと考えています。

現在、地域ケアのネットワーク作りに向けた連携を積み重ね、高齢者が安心・安定した在宅生活を継続できるようなシステムを構築しています。具体的には地域の医療機関や訪問介護、訪問看護事業所との繋がりをよりいっそう深め、都外施設で暮らしている高齢の被保護者が、住み慣れた地域に戻れるような環境作りを行い、継続的で安心した在宅生活を送ることが出来るような体制作りを行っています。

事業の成果等

単身生活を送っている低所得高齢者に対し、訪問などを通して現状の社会制度や介護サービスでは対応困難な細かな支援を継続的に行いました。利用者からは訪問を待ち望んでいるといった声を度々聞かされ、地域社会資源に繋がることが難しい低所得高齢者からの相談も増えています。

また、福祉事務所、社会福祉協議会、地域包括支援センター等関係機関との連携体制も構築でき、依頼も増えています。さらにマスコミ等からの反響もあり、新聞各社等メディア関係・福祉事務所・他団体等15名を招き、当法人内施設見学及びメディアカンファレンスを実施しました。

特別非営利活動法人自立支援センターふるさとの会  
「困窮要介護単身高齢者地域支援拠点設置事業」  
【助成金額=4,082千円】



地域が抱える課題

身寄りのない疾病・障害等を抱える単身独居高齢者が、自治体の被保護者としての受け入れに限界があることから、止むを得ず住み慣れた地域を離れていること。

動機

介護が必要な、または認知症を抱えるなどの単身低所得高齢者が、安定・安心して住みなれた地域に戻れるような環境が必要ではないか！

事業の成果

- ・ 地域の内外で生活を送っている高齢者の生活の現状把握ができた。
- ・ 緩やかなネットワークを構築することで、行政では対応が難しい支援を臨機応変かつ柔軟に実施することができた。
- ・ 地域の外で生活されている方が地域に戻って来られる体制を整備できた。
- ・ 利用者の寂しさ・孤独感に寄り添うことができる支援ができた。
- ・ 心身の状態の変化に気づくことができ、当事者のニーズに的確につなげられた。

助成事業

24時間365日対応のサポートセンターを設置

利用者の心身状態に合わせた最適な支援ができるようなコーディネート機関

既存の制度や従来の社会資源を組み合わせ、連携・協働が図れるような仕組みづくり



外部有識者のコメント

全体的な主として非営利の、一部企業化されているビジネスの全体像を把握していると上記のような評点となると思われる。ソーシャル・イノベーターとしての取り組み・事業という観点から見る事ができるかが採択や評価を行うためのポイントとなると考える。ある意味では公的貧困対策の民営版ともいえるものである。

行政で担い得ない制度の谷間や3重苦（高齢・単身・低所得）に加えて精神という4重苦の部分への対応を、福祉事務所の1生保ワーカーが担うことは現実的には全く不可能である。この事例は新宿区というこの領域について先進的な取り組みを行う区行政および担当者達の協力があって可能なものとなったが、このような事業体が存在することによって、いわば新宿区の地域性を踏まえ、行政との良好なパートナーシップのもとで事業を進めていることも成功事例として特筆すべきである。

お問い合わせ先



〒111-0031 東京都台東区千束4丁目39番6号 4階

特定非営利活動法人自立支援センターふるさとの会

電話 03-3876-8150 HP <http://www.d5.dion.ne.jp/>

先進的・独創的活動支援事業（第2次助成分）

助成テーマ：高齢者・障害者の介護を担う家族を支援するための基盤の確保及びネットワーク整備を図る事業

## 特定非営利活動法人 スマイルウェイ

『 男性介護者用コミュニティとビデオ制作事業 』

【助成金額：5,076千円】

### 事業概要

介護をする人の3人にひとり男性が介護をする時代になりました。その数は100万人を超えて年々増加しています。残念ながらそれに比例して男性による介護事件は増加しています。

そのため、男性による不幸な事件を防止するための手段として、先ず男性介護者が介護の悩み、グチを吐ける場所「ほっこり庵」を提供しました。次に男性介護者の理解と支援のためのDVDを全国の男性介護者等に無料配布しました。

### 事業の内容

「ほっこり庵」は、お正月も含め年中無休で平成22年11月1日のオープンから毎日営業をしています。スタッフは当初1人の常駐を予定していましたが、複数で訪問を受けた場合、2名は必要であるためスタッフの確保に努めました。

事業の内容は男性介護者の話を聞くことが基本です。初めて訪問された男性介護者は堰を切ったように2～3時間ほど話されます。その後は表情が変わって明るくなります。別人のように変わる男性もいらっしゃいます。

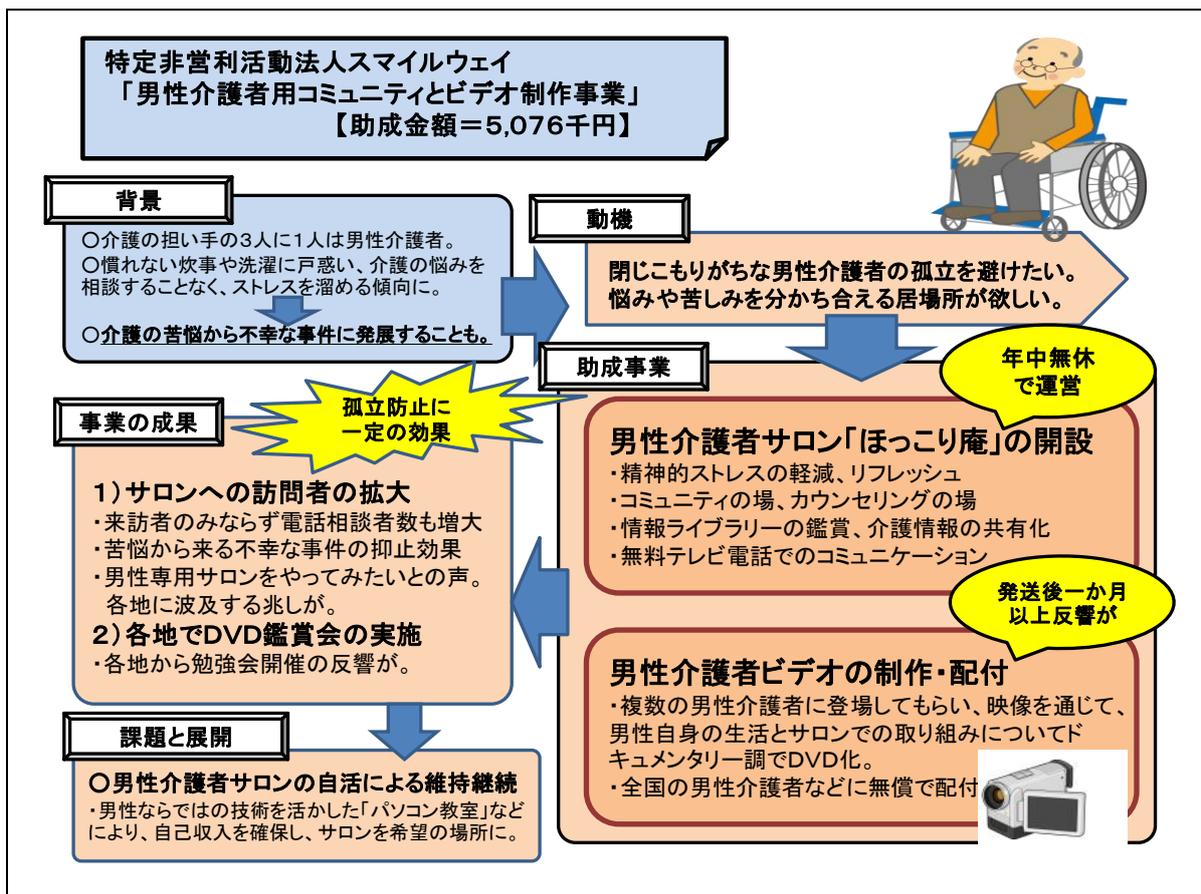
しかし、男性介護者はいつも介護の話ばかりしているのではなく、何度も訪問する方はむしろ雑談の方が多くなっていきます。介護で孤立している男性ほど、話し相手が必要なのです。スタッフは傾聴の心得が必要となるため、傾聴講座等でのスキルアップに努めています。

もう一つの事業として、全国の男性介護者の言葉をビデオに記録する活動があります。男性介護者の理解と支援をしてもらうため、21年度から全国の男性介護者の記録をしてきたビデオを12分間のDVDにしました。全国の男性介護者と社会福祉協議会、地域包括支援センター合わせて1,240カ所あて、22年度末に無償で発送しています。

### 事業の成果等

京都、奈良、神戸、西宮に住む男性の方から、「ほっこり庵」のような男性のためのサロンを作りたいと希望され、視察にいらっしゃいました。具体的な姿にしたことで、男性介護者の支援が大きく進む可能性について、示唆があったものと思います。

また、オープン前からマスコミに取り上げていただきました。読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、神戸新聞、NHKニュース3回、TBSみのもんたのサタデーずぱっと、サンテレビ、MBS毎日放送、FM宝塚、関西ラジオ、宝塚市社会福祉協議会会報、兵庫県北県民局会報、宝塚NPOセンター会報等に「ほっこり庵」の紹介をしていただき、反響が来ています。



### 外部有識者のコメント

熱意に満ちた先駆的な取り組みであり、同種の取り組みに影響を与えるなど、きわめて高く評価できる事業である。

日本初となる男性介護者のためのコミュニティサロンを年中無休体制で運営している点、男性介護者との信頼関係を構築している点など、評価すべき点は多いが、施設運営にとどまることなく、メディアを活用して連携とエンパワメントに力点を置いている部分が非常に優れていると評価した。

反面、財源の確保など事業の維持存続について懸念する意見も強く、組織管理や経営力などについても指摘があった。これまでの成果を有効活用し、新たな観点から、財源の確保や運営に取り組まれるよう強く期待するところである。

### お問い合わせ先



〒665-0044 兵庫県宝塚市末成町6-18

特定非営利活動法人スマイルウェイ

電話 0797-62-9320 HP <http://www.smileway.jp/>

先進的・独創的活動支援事業（第1次助成分）

助成テーマ：地域や家庭における子育て支援に関する事業

特定非営利活動法人 こどもサポートネットあいち

『「虐待児継続手記集作成と施設の現状考察」事業』

【助成金額：4,366千円】

### 事業概要

手記の目的は、虐待を受けて入所した子どもたち及び卒園生の同じ子どもたちに、3年、6年、9年後と、引き続きその後の成長した様子を書いていただく追跡の手記を出版することです。

平成7年に東海3県の乳児院・児童養護施設の協力によって手記を出しており、引き続き同一の子どもたちの協力を得て、長期的・継続的な取り組みを実施しました。手記を通して、現状の乳児院・児童養護施設や親との関係のあり方をも見直す機会とし、子育てに悩んでいる親御さんや若者たちに人生の生き方に役立つものになればと考えています。

### 事業の内容

まず取り組んだのは、全国の児童養護施設で生活している高校生と職員へのアンケートを実施し、施設生活の思い出、今後の施設のあり方等を聞きました。夏休みには高校生と施設退所者による座談会を実施しました。さらに、学生によって、手記集を書いていただいた児童、職員を施設訪問してインタビューを行いました。

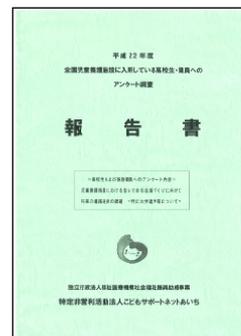
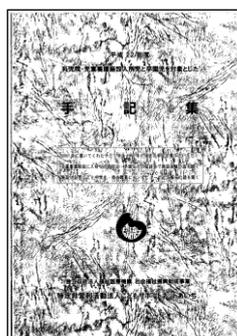
また、手記集及び全国各地からの児童養護施設へのアンケート結果とその分析を冊子にして、全国の児童養護施設や関係機関に配布しています。

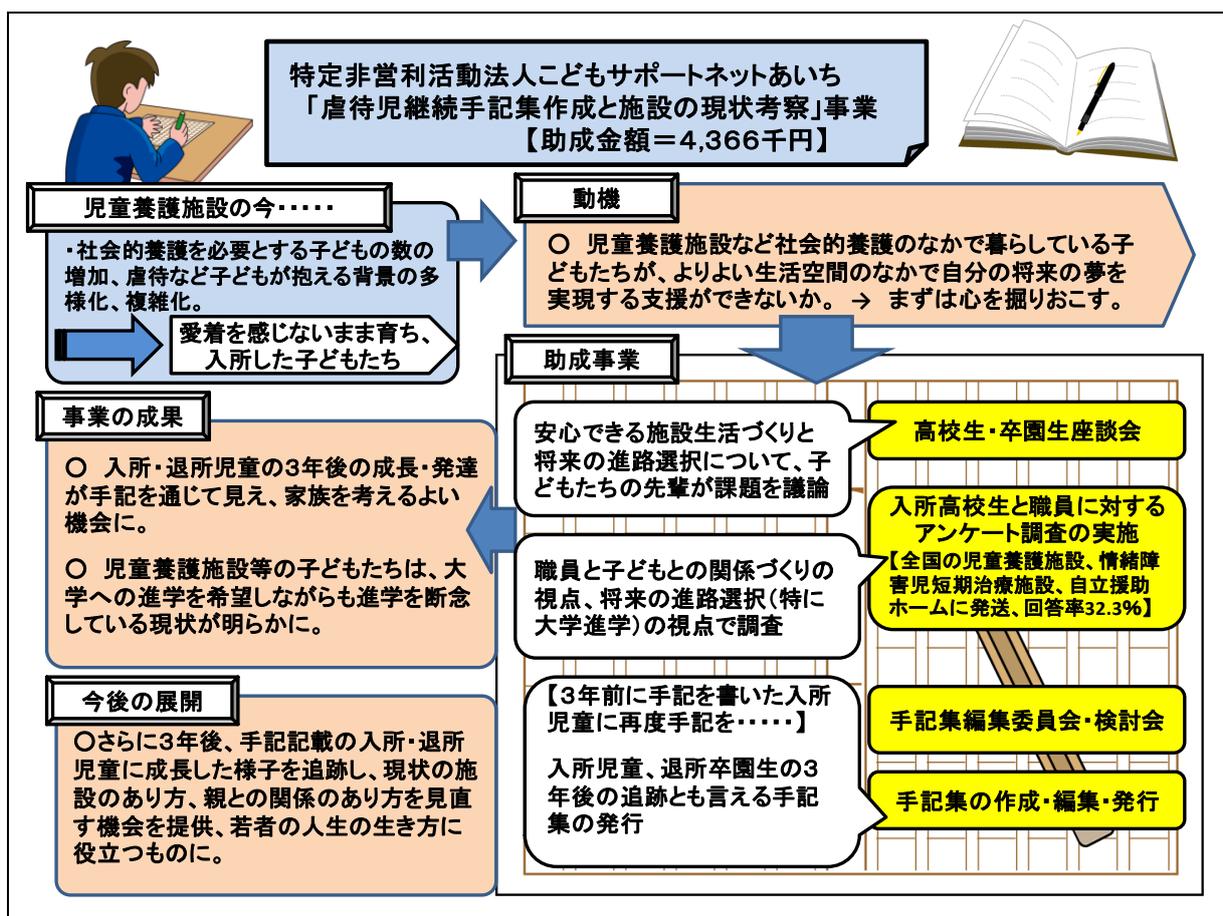
座談会・アンケート内容から施設高校生及び施設退所者への日常的自立支援活動の重要性を高校生や施設退所者から伺うことができ、今後の活動に活かしていきたいと思います。

### 事業の成果等

あらゆる機会（施設職員研修・研究会機関誌・学生対象の養成講座等）で手記集に書かれた子どもたちの気持ちや乳児院・児童養護施設の今後のあり方、地域や子育てのあり方に役立てたいと思います。特にアンケートに関しては、集計段階よりマスコミ関係者から注目され、幾つかの新聞に取り上げられています（中日新聞・朝日新聞・毎日新聞・全国児童養護施設長全国大会シンポジウム・雑誌「子どもと福祉」6月発刊等）。

平成24年4月には、作文集とアンケートをセットにした書籍を発行する予定です。





### 外部有識者のコメント

乳児院や児童養護施設で生活する子どもたちの実態は社会一般に知られていない部分が多く、理解も乏しいのが現状である。そうした中、本団体はかねてより養護施設児童の生活記録に取り組み、とりわけ施設を巣立った後の子どもたちの人生を丁寧に追跡し、バックアップすることに注力している。タイガーマスク現象のような華やかさはないが、施設児童に最も必要な自立支援に豊かな愛を持って注力している活動理念の崇高さと取組姿勢の真摯さには胸打たれるものがある。本団体への助成継続は福祉医療機構の助成事業として大いに推奨されるものである。

事業推進の理念や姿勢からすれば、本事業は極めて高い評価を与えられるものである。しかしながら、今回の助成事業となった「アンケート調査」と「手記集」に関しては、時間的な制約や、その他体制上の制約もあってか、方法や結果のまとめに今少しの工夫が欲しいところも否めない。

したがって、総合評価はAランクとしたが、本団体の活動内容と今後への期待からして、可能な限り総合評価はSランクに近いという点で、各委員の評価が一致したところである。

### お問い合わせ先



〒462-0058 名古屋市北区西志賀町5-13-1  
 特定非営利活動法人こどもサポートネットあいち  
 電話 052-912-7101 HP <http://kodomosp.com/>

先進的・独創的活動支援事業（第1次助成分）

助成テーマ：地域や家庭における子育て支援に関する事業

特定非営利活動法人 多摩在宅支援センター円

『精神疾患をもつ親とその家族の在り方検討事業』

【助成金額：1,936千円】

### 事業概要

「多摩在宅支援センター円」では、訪問看護を中心に事業を展開しており、社会的無支援者へサービスが届くことを方針に掲げています。育児困難な精神疾患の利用世帯は、訪問看護利用対象者の10%を占めています。既存の社会資源にはなかなか繋がりにくく、さらには精神保健分野と母子保健分野の連携が不十分なことから、精神疾患をもつ親と子のグループワークを実施することにしました。

### 事業の内容

対象者は、精神科への入院歴及び通院歴のある、育児困難に陥っている親とその家庭の子どもで、参加者は最大8世帯です。内容は、保護者対象のグループミーティングを、ファシリテーターを中心にティータイムを交えて話し合います。また、児童対象は、ケア的保育で、手作りの軽食を用意し、子どもの状況を把握し、健康な遊びや体験を通して心理的負担感の軽減を図りました。回数は、クールは設けず、月1回日曜日、10時～12時、子ども家庭支援センターの会場を借りて実施しました。保護者と児童は原則として完全別室とし、自力で実施場所に来所できない家族には送迎を行いました。

保護者グループのスタッフは、ファシリテーター、サブファシリテーター、記録、看護師、精神保健福祉士、児童対象グループは、子ども2名につき、スタッフ1名程度とし、保育士、グループワーカー、心理学部大学院生の学生ボランティアが関わりました。

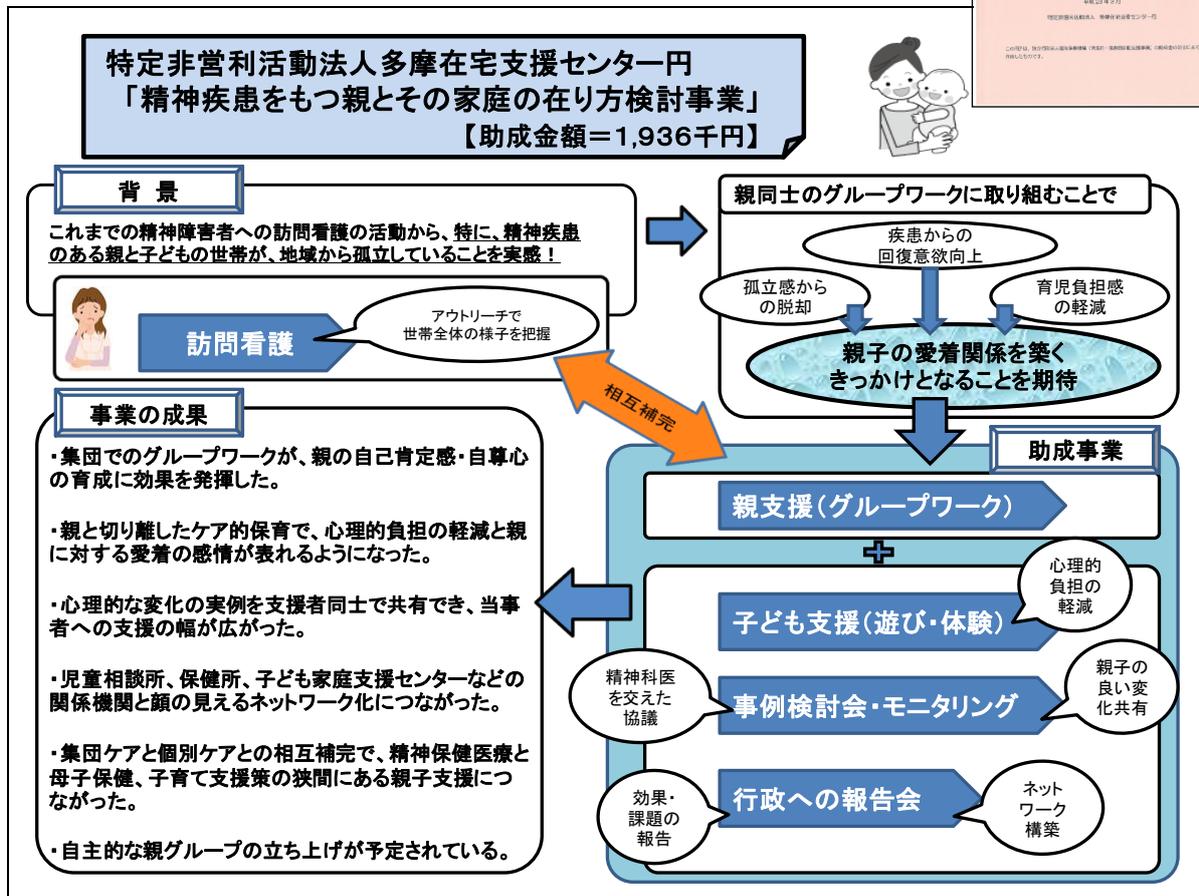
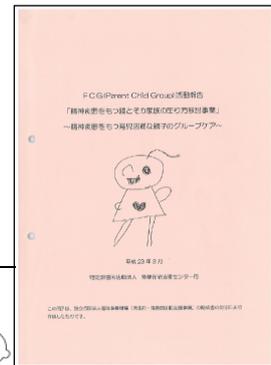
また、送迎ボランティアは、市民活動の精神障害者ボランティアグループや精神障害者民間事業所スタッフが関わり、より地域に根付いた活動ができました。

### 事業の成果等

精神疾患を抱えた子育てに悩んでいる世帯への対応にあぐねている地域関係機関は多く、もっともサービスが必要なこのような世帯に支援が届かない現状がありました。

本PCG事業を行うことで、八王子市の様々な既存のサービスへ事例を通してつないだこと、また、報告会を実施することで、地方で立ち上げようとしている大学関係者及び研究者が、インタビューや見学においてになり、波及の一助になったと思います。利用者の皆さんは、グループの継続を望んでおられることから、翌年度も継続します。

【成果物】 PCG (Parent Child Group) 活動報告  
 「精神疾患をもつ親とその家族の在り方検討事業」  
 ～精神疾患をもつ育児困難な親子のグループケア～



外部有識者のコメント

地域の行政、医療、福祉に跨りながら、制度の隙間に陥りやすく、持続的支援につながりにくい精神疾患を抱える母子に対して、訪問看護ではなく、月1回のグループミーティング参加を通じてケアしていく試みは、地味であるが先駆的で独創的的事业として評価できる。送迎や子どもグループのボランティアに心理の学生を募り、参加者親子が仲間へ繋がる力で回復に向かうグループ活動は、地域福祉的的事业で一民間の訪問看護ステーションの活動として画期的なものである。

報告書も、1年間の生き生きした活動記録に専門的考察も踏まえ、事業の実質的な成果が記録されている。事業のプロセスや成果から、費用対効果もかなり高いと評価されたこのような事業こそ、今後他地域に広く普及して欲しい。そのためにも、行政や医療関係者に本事業の成果が注目されることを期待する。

お問い合わせ先



〒190-0011 東京都立川市高松町2-9-21 F本社ビル1階  
 特定非営利活動法人多摩在宅支援センター円  
 電話 042-548-3562 HP <http://zaitakuen.or.jp/>

先進的・独創的活動支援事業（第3次助成分）

助成テーマ：貧困対策等社会的支援（福祉的支援）が必要な事業

## 特定非営利活動法人 フードバンク山梨

『食のセーフティネットモデル事業』

【助成金額：1,869千円】

### 事業概要

派遣切りなどの失業者、生活保護のボーダーにある方、高齢者やひとり親世帯、路上生活者など、生活困窮の状態にある方たちは増加の一途をたどっています。その一方で、日本の食品ロスは年間500万トン～900万トンとされています。フードバンク山梨は、企業・農家・市民から食品の提供を募り、賞味期限内で安全に食べられる食品を、困窮している個人の方に対して無償で提供する事業に取り組みました。

### 事業の内容

1. 企業、農家、市民から食のセーフティネットモデル事業への食品提供を募るため、企業の集まるフェアなどへ参加し、新規企業を開拓しました。また、家庭の余剰食品を集めるフードドライブに取り組み、多くの食品の寄贈を受けました。
2. 地域の情報を得るため、活動の周知に努め、生活困窮者に関する県行政機関、市町行政機関、社会福祉協議会、支援団体などへの説明会を実施し、生活保護前の地域の見えない困窮者を掘り起こすことに繋がりました。
3. 生活困窮者の個人宅への宅配便を使用して、直接食品をお届けする食のセーフティネットモデル事業を開始しました。企業や市民から寄せられた食べものを分かち合う仕組みであり、一人ひとりが少しずつできることを行って支え合う社会づくりに繋がる活動となりました。

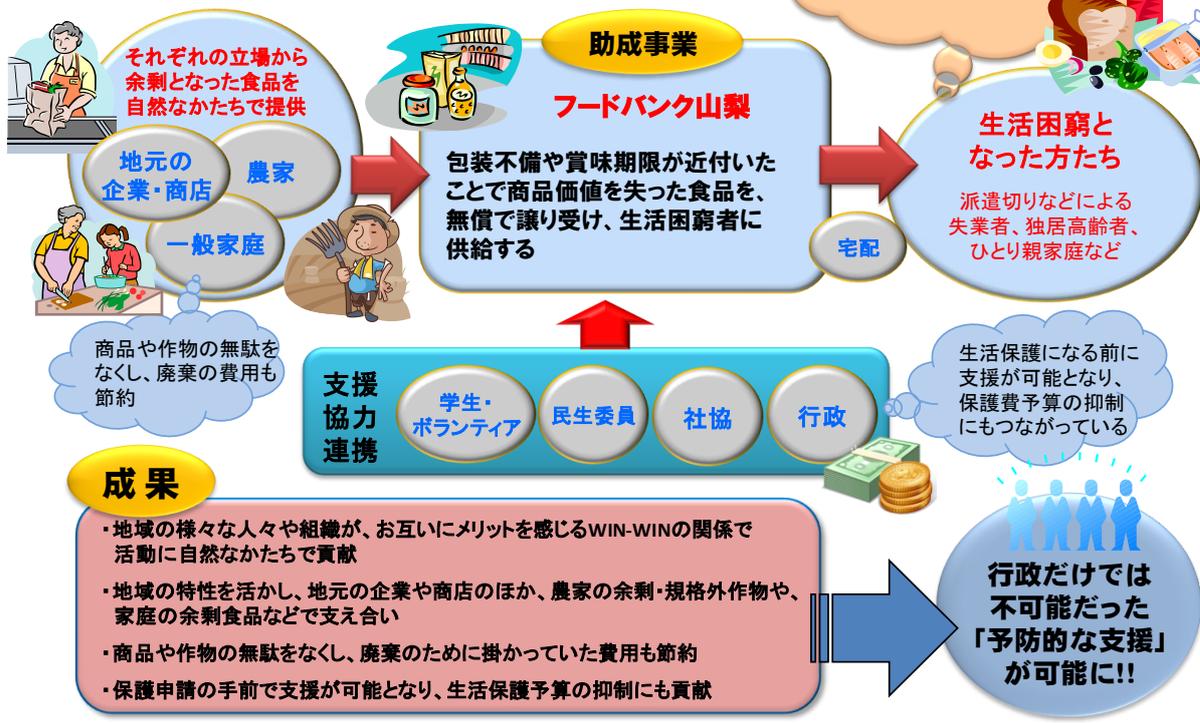
### 事業の成果等

「命を支える食と心のきずなを届けます」のテーマのもと、毎回手書きの手紙と返信用ハガキを同封することで心の繋がりができており、より多くの人たちを食べものと心の面で支援することができました。行政との協働事業により生活保護のボーダーにある自立可能期間の方々を食糧支援することで、就労につながり、自立できた例が多く出ています。行政・市民・企業の協働により、食品ロスを有効に活用し、生活保護制度だけではできなかった支援が可能となりました。

特定非営利活動法人フードバンク山梨  
「食のセーフティネットモデル事業」

【助成金額＝1,869千円】

命を支える  
食と心のきずな  
を届けます



外部有識者のコメント

参考にした欧米型の先行事例等を上手に日本型に焼き直した活動の好例といえ、NPOならではのニッチ性という特色が十二分に発揮され、その事業水準も極めて高い。訪問先の家族構成、住環境、実際ニーズなどの細部までを調査票等を通じて丁寧に捕捉し、実にこまやかな支援が実施されている。事業を継続するにあたっての課題として運営経費の問題を挙げ、県知事や厚労大臣に対して提言を行うなど、当該事業の制度化に向けたアドボカシー的な活動にも積極的である。しかしながら、日々の活動実績を数値化して、客観的な振り返りの材料とする等々のことが出来ていない。今後はこのようなデータ整理の部分でも成熟を期したい。

お問い合わせ先



〒400-0301 山梨県南アルプス市桃園385-6

特定非営利活動法人フードバンク山梨

電話 055-282-8798 HP <http://www.fbyamana.com/>

先進的・独創的活動支援事業（第1次助成分）

助成テーマ：日常生活、社会参加等を支援する福祉用具の実用化研究開発に関する事業

フランスベッド株式会社

『手動車いす自動ブレーキ装置の改良と実用化の事業』

【助成金額：20,331千円】

事業概要

車いすのブレーキかけ忘れは、転倒やそれに伴う怪我、骨折などの原因となり、病院や施設内で起こる事故の主要な原因といわれています。本研究では、車いす利用者の認知機能の問題によるブレーキかけ忘れを起因とした、車いす移乗時の転倒リスクを軽減・回避する装置の改良と実用化を目指します。また、施設、病院等のアンケート調査、臨床評価を行い、本装置の効果を実証します。

事業の内容

1. ブレーキかけ忘れ実態調査

病院や施設内、さらに在宅で起こる手動車いすのブレーキかけ忘れによるヒヤリハットや転倒等の事故の実態調査をしました。アンケート調査の結果、全体の4分の3が、ブレーキのかけ忘れがあると回答しました。特に介護福祉施設においては約9割、医療施設においては約9割、在宅においても3割以上がブレーキのかけ忘れがあると回答しました。

2. 設計・開発

ブレーキかけ忘れ防止装置の改良を、5次試作まで行いました。

3. 評価・試験

試作した車いすの安全性と効果を、工学評価と臨床評価によって評価しました。

事業の成果等

病院、施設、在宅に向けてのアンケート調査の結果、および病院、施設での臨床評価の実施により、自動ブレーキ装置の需要が高いことがわかりました。

平成23年5月末の2次臨床評価の結果を反映させた最終モデルを8月末までに完成させ、23年10月に開催のHCR国際福祉機器展にて展示を行い、同年12月より販売を開始いたしました。





利用者が車いすから立ち上がると、自動でブレーキがかかります。

#### 外部有識者のコメント

- よく出来ていると思います。
- 日本の知がたまった製品と感じました。
- ぜひ中国以外のパテントも取得して、車イス同部品の輸出品として世界に発信していただければと思います。
- とても素晴らしい製品に仕上がりにつつあるように感じました。

#### お問い合わせ先



〒163-1105 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スエアワ-5階  
フランスベッド株式会社（商品企画部）  
電話 03-6894-2350 HP <http://www.francebed.co.jp/>

先進的・独創的活動支援事業（第1次助成分）

助成テーマ：貧困対策等社会的支援（福祉的支援）が必要な事業

### 特定非営利活動法人 えがおさんさん

『医療的ケアが必要な子どものモデルデイ事業』

【助成金額：4,919千円】

#### 事業概要

医療的ケアがある、医療機器がないと生活できないため見てもらえるところがない、また外出もままならないなどのお子さんを、日頃から見ている看護師、介護士がいるところで、安心して預けられる平日、休日モデルデイを実施しました。送迎も試み、医療的ケアが必要なお子さんの兄弟児も含めて開催しました。

子どもが安全に、また楽しく参加できるデイを意識し、学生ボランティア、遊びの専門家、療育を取り入れ、平日、休日ともに一年間継続しました。

#### 事業の内容

重度の疾患などのため、人工呼吸管理下であったり、経管栄養管理などの医療的ケアのある子どもたちと、そのご兄弟の預かり、モデルデイ事業を開催しました。

実施の方法として、子どもたちの病状や症状を良く知る訪問看護師や、生活を知る訪問介護福祉士の方を派遣する事業所の協力を得、子どもたちの安全・安心を図るために、モデルデイ事業へも看護師、介護士の方を派遣してもらえるようにしました。さらに、外出や移動の難しいお子さんなどの送迎にも看護師、介護士の方々に添乗をお願いしました。

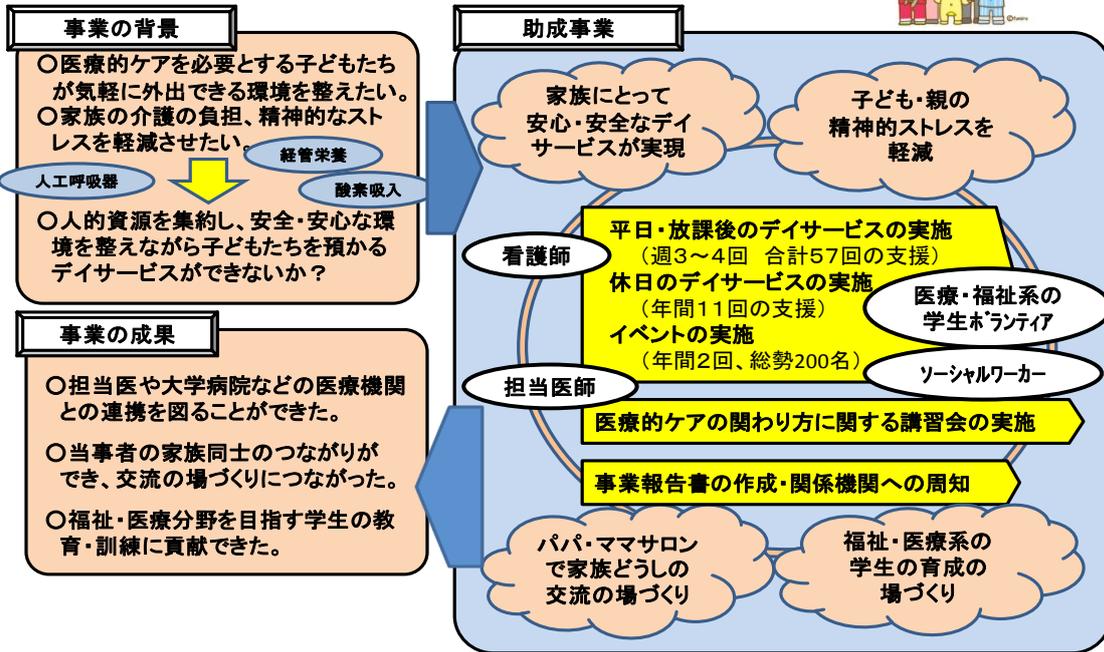
モデル事業は、広い会場を借りて開催する、月一度・長時間の休日デイと、平日週2回3時間程度の、生活に即したケアを提供する平日デイ、そして年2回のイベントとして総勢100名以上の規模で、夏祭りとクリスマス会を開催しました。NPOの特徴でもある“えがおファンクラブ”のたくさんの学生ボランティアの方々によって、楽しいデイにいただきました。

#### 事業の成果等

年間11回の休日デイ、57回の平日デイ、年2回合わせて総勢200名規模のイベントを開催することができました。回を重ねるごとに参加が増え、リピーターも増えていきました。利用されたご家族などから開催を聞きつけ、見学に来られた知的・発達障がいの子どもたちご本人や親御さんからも、利用のご希望がありました。

他団体からの見学希望も多くあり、小児病院の勉強会での講演依頼や医療ケア講習の講師依頼・執筆依頼なども来ています。

特定非営利活動法人えがおさんさん  
 「医療的ケアの必要な子供のモデルデイ事業」  
 【助成金額=4,919千円】



事務局のコメント

- 重度障害児のケアには、療育とリスク管理の両方の準備が不可欠ですが、看護師・介護スタッフ・臨床心理士・学生ボランティアなどが、毎回それぞれの分野に応じた専門的支援を行うことで、課題を克服されていたものと感じました。
- また、在宅支援の経験を活かし、在宅支援スタッフがデイサービスにおいても担当するなど、利用者とその家族の不安を和らげるよう配慮され、サービスの質の確保に努められているところに工夫を感じました。家族向け講習会は、日常生活のケアに役立つ新たな知識を紹介し、保護者の目線に立った講座内容であったものと思われます。
- 事業報告書では、モデル事業の紹介に加えて、専門職スタッフや学生ボランティアによる事業の振り返り、保護者のコメントなども掲載されております。報告書を手にとった方は、重度障害児と家族の状況、活動の必要性や意義を知ることができる良い内容という印象を持っております。助成事業完了後も、今回のモデル事業や事業報告書を基に、他団体や行政などに、得られた経験やノウハウをぜひ伝えていただき、制度化につながることを期待しております。

お問い合わせ先



〒169-0072 東京都新宿区大久保2-5-25  
 特定非営利活動法人えがおさんさん 電話 03-3209-8668  
 HP <http://www.egaosunsun.com/>

先進的・独創的活動支援事業（第3次助成分）

助成テーマ：貧困対策等社会的支援（福祉的支援）が必要な事業

## NPO法人 くまもと支援の会

「ホームレス等生活支援・配食・サロン事業」

【助成金額：3,013千円】

### 事業概要

厳しい雇用情勢の中、ホームレスやネットカフェ難民といった人々を対象として、就労支援はもとより、心身の健康支援を目的に、おにぎりの配布、炊き出し時の健康相談、精神科医療の専門家による相談、仲間同士の情報交換やくつろぎの場の提供、女性専用シェルターなどを開設する事業を実施しました。

### 事業の内容

おにぎりの配布については、ボランティアが主体となって6コースに分かれて実施することができました。市販の風邪薬や貼るアンカも配布できました。

女性専用シェルターは、最初1名枠でスタートしましたが、需要があって最高5名のご利用がありました。女性であるが故に、緊急な対応をすることができたことは、支援する側として心強い思いがしました。

臨床心理士等の専門職を配置して、知的障害等のスクリーニングを実施したことにより、療育手帳取得の申請が増え、処遇の方向性が早めに確定できて、業務を効果的に遂行することができました。

サロン開設によって、孤立しがちと思われていたホームレスの方々に、情報提供と共に居場所を提供することができ、効果がありました。看護師と行政書士も嘱託採用して健康相談と借金問題の対応もでき、役立ちました。

### 事業の成果等

おにぎり配りや週2回の炊き出しなどを実施したことによって、当事者の方々の安否確認に役立ちましたが、冬季は路上死の知らせは聞いておりません。年末年始にはシェルター利用数を多めにしましたが、これも悪い知らせのない効果の表れだと思えます。

また、家出して車上生活をしていた20代の女性を女性専用シェルターへ保護し、ご両親との間に立って支援したことにより、ご家族のもとに帰っていただくことができたのは、シェルターの効用の一つだと考えています。

**NPO法人くまもと支援の会**  
**「ホームレス等生活支援・配食・サロン事業」**  
**【助成金額＝3,013千円】**

**背景**

ホームレス生活者の中には、知的障がいや精神疾患を患う方の存在があるものの、支援の手が差し伸べられていない。

**課題・きっかけ**

障がい・疾患をもつホームレス等の方に適切な医療機関等につなぐ仕組みがあれば、より弱い立場の方の人権を守れるのではないかと！

**事業の成果**

- ・関係機関との連携協働によって、シェルター利用や精神科への入院に迅速に対応。
- ・定期健診・歯科検診など、医療機関との連携による支援が効果を発揮。

**パーソナルサポートの強化の必要性**

**助成事業**

おにぎり配り

炊き出し

自治体、ハローワークからの情報提供

食事を提供しながら健康状態を把握

- ☞ 相対で健康相談を行い、医療的な支援を実施

知的障がい・精神疾患などを患う方への相談支援

早期発見

- ☞ 毎月2回の精神科医と臨床心理士による相談支援

孤立防止のためのサロンによる居場所づくり

延1,026名の利用

- ☞ 居場所の提供と同時に就職活動、法律相談の支援も

宿所提供（特に女性専用シェルターの開設）

- ☞ 二部屋の宿所提供、プライバシーの確保

地域医療機関、高齢者施設、障害者施設との連携

**事務局のコメント**

- 「すべてはこころのつながりから」という理念を持ち、これまでその理念に基づき事業を行ってきた結果として、県内の行政からの確固たる信頼を得ていること、医療機関等他の機関との連携関係が構築されていることに感銘を受けました。
- 本事業において、全国的にもあまり例を見ない女性専用シェルターの設置・運営を行う中で5名の方々を保護・支援し、自立に向けた一歩を踏み出させたことについては、現在、女性のホームレスの方が増えている中で全国的に対策が遅れている状況に対応したものであり、今後、全国へ波及していく先進的な取り組みとして高く評価できるものであると感じました。
- 事業運営においては、炊き出し等のボランティアの方の数は十分に足りているとのことでしたが、個々人のより深い部分まで関わって支援を行える人材に関しては不足しているとのことで、県内全域をしっかりと対応できる状況を維持するうえでも、人材育成・確保は喫緊の課題だと感じました。
- 貴法人としても今後の課題として、支援の中で弱い部分（パーソナルサポート）や財政確保の活動強化を上げておられました。活動を継続していくうえでのステップアップとして、認定NPOの取得に向けて検討しているとのことでしたので、課題を乗り越えてのさらなる飛躍に期待しております。今後ともぜひ活動の動向などをお知らせいただければと存じます。

**お問い合わせ先**



〒860-0004 熊本市新町 4-1-8 マリオンパレス 87  
 NPO 法人くまもと支援の会 電話 096-245-7521  
 HP <http://npokumamotoshien.racms.jp/>

地域活動支援事業（第1次助成分）

助成テーマ：高齢者・障害者が主体的・積極的に活動することができるよう創意工夫を活かした場の提供等を図る事業

社会福祉法人秋田市社会福祉協議会

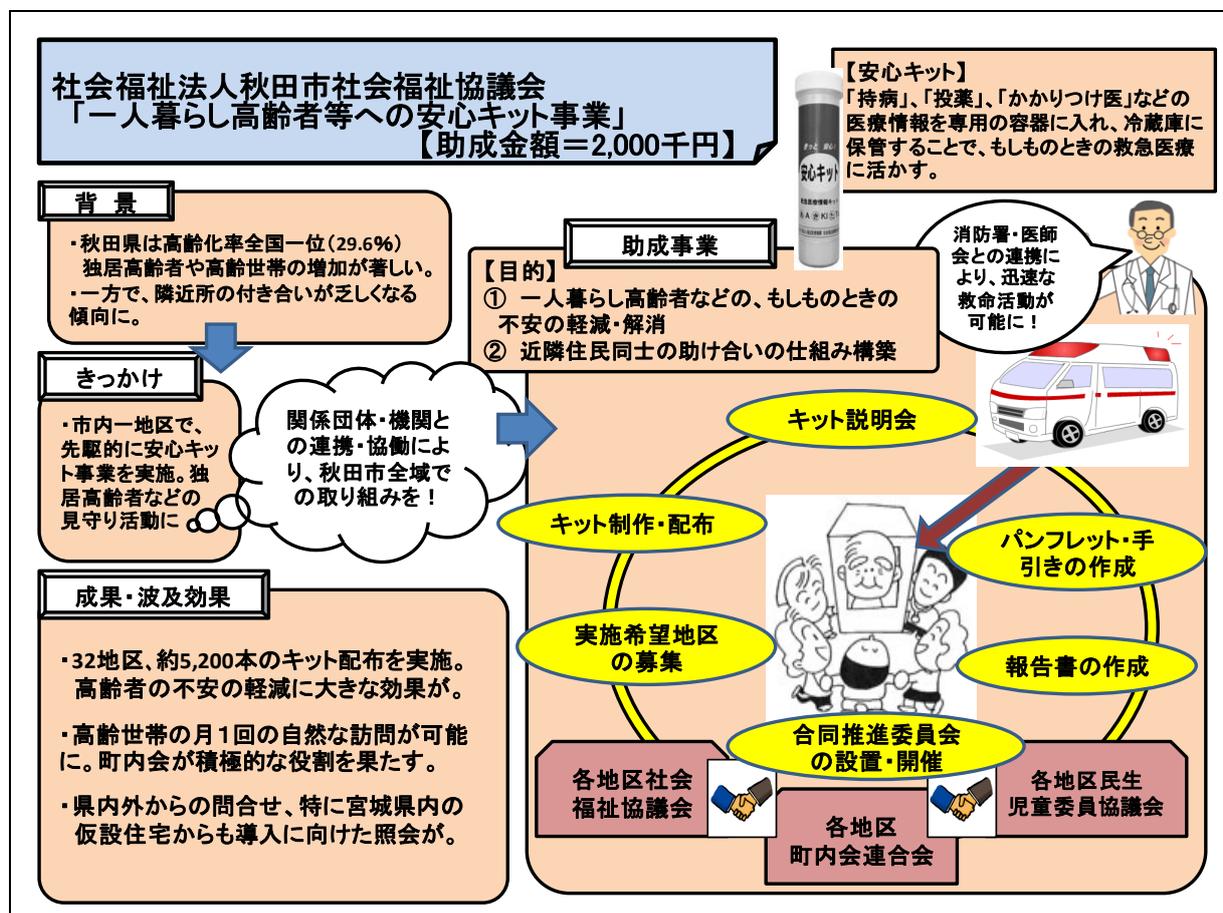
「一人暮らし高齢者等への安心キット事業」

【助成金額：2,000千円】

事業概要

秋田市内の75歳以上の一人暮らし高齢者、80歳以上の高齢世帯などに対して、「持病」、「投薬」、「かかりつけ医」などの医療情報を入れる専用容器（安心キット）を配布。自宅の冷蔵庫にこの容器を保管しておくことで、具合が悪くなり救急車を呼ぶなどの「もしも…」のときに、その情報を救急医療に活かすという取り組みです。秋田市社協が安心キットをまとめて製作したうえ、各地区の町内会・民生委員・社協が「主体」となって、希望する対象者の方々へ無料で配布しました。これにより、高齢者等の不安の軽減を図るとともに、地域での声かけ・訪問活動の充実を狙いとして実施しました。

事業の内容



## 事業の成果等

安心キットを配布したことによって、高齢者を中心に多くの人が抱えている、いざというときの不安を軽減することができたことは、何よりの成果だと感じています。

また、この事業の実施体制を「地区社会福祉協議会」、「地区民生児童委員協議会」、「地区町内会連合会」の協働体制としたことにより、多くの地区で三者による話し合いの場が設けられ、各地区の地域福祉活動の土台となっている三者の連携がさらに強化されたことは、評価できる点だと思っています。

さらに、見守りネットワーク事業と連携して行うことを当初からの柱としていたことから、「安心キット」が、地域の声かけ、訪問活動のきっかけになり、希薄化が進む地域での起爆剤として期待されます。

なお、いざというときに不安を感じているのは、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯だけではないという声を沢山いただいたことから、キットの配布は、年齢条件の緩和を含めて対象となる世帯の拡大をしていくことが課題となっています。

## 事務局のコメント

- 当該事業は、単に「安心キット」を配布することを目的とせず、キットの配布を手段として、単身独居高齢者などの不安を取り除くためにどのような地域の協働体制を築いていけるか、ということですが、地域の関係機関を巻き込んだ事業として優れているものと考えられます。
- 秋田市内の地区社会福祉協議会、地区民生児童委員協議会、地区町内会連合会の三者連絡協議会が設置されたことをきっかけに、身近な自治会レベルでの訪問や見守り活動が形成されつつあることから、地域での助け合いの仕組みの構築に繋がっています。
- 特に、これまで地域住民自身が高齢者の状態については希薄な意識であったものが、キットの配布を通じて近所の様子を知ることや声掛けに繋がったことで、高齢者の不安の軽減に役立っていると反応があったことは、良質なモデル事例として具体的な成果があがったのではないかと考えます。
- なお、当該事業をホームページで広く公開したこと等によって、被災地の仮設住宅を含め、県内外から問い合わせが複数来ているとのことですが、この仕組みが、それぞれの地域住民を広く巻き込んだ高齢者への見守りづくりに繋がるよう期待しております。

## お問い合わせ先



〒010-0976 秋田市八橋南1-8-2

社会福祉法人秋田市社会福祉協議会

電話 018-862-7445 HP <http://www.akita-city-shakyo.jp/>

地域活動支援事業（第2次助成分）

助成テーマ：貧困対策等社会的支援（福祉的支援）が必要な事業

特定非営利活動法人キッズドア

「困窮家庭でも利用可能な低額学習支援事業」

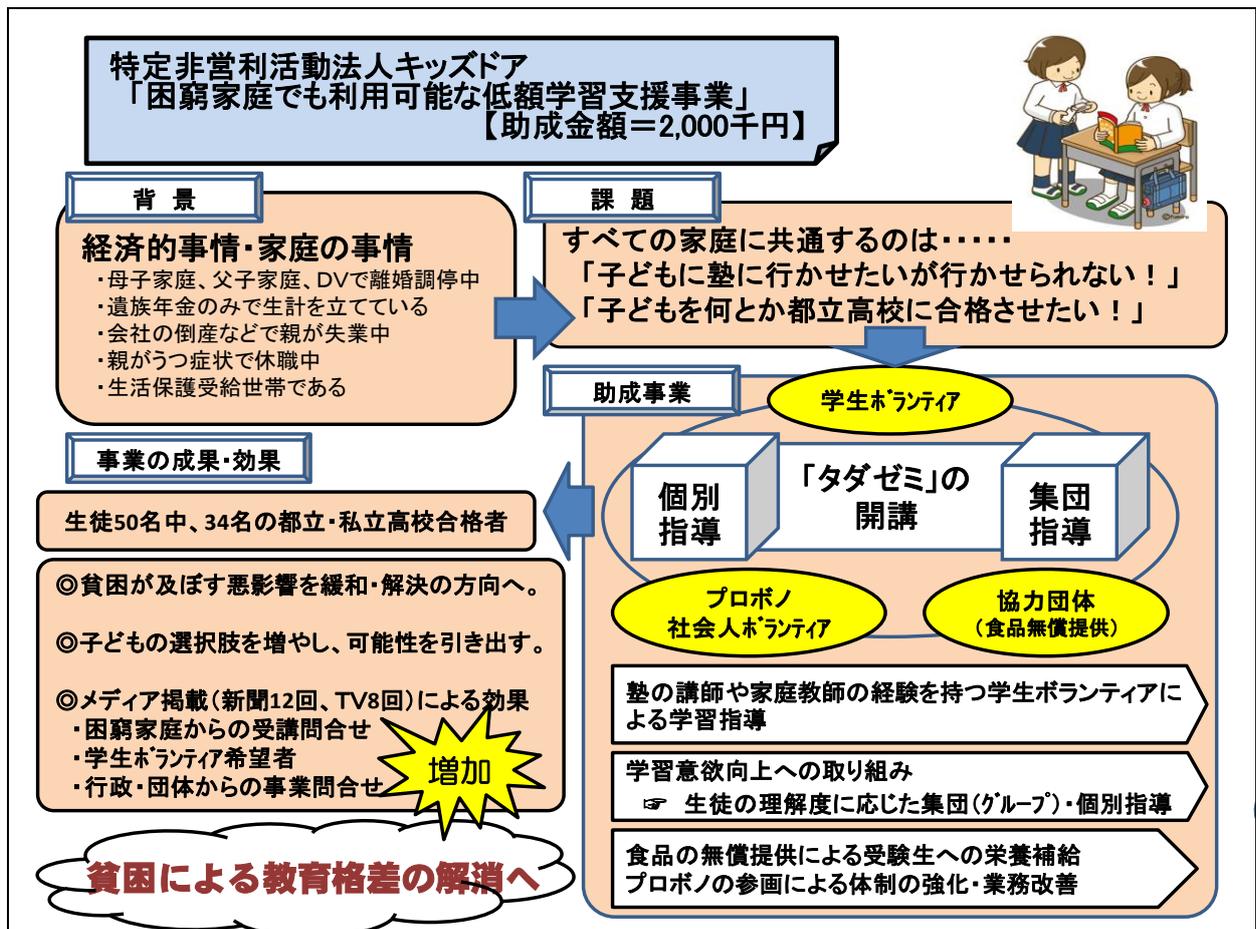
【助成金額：2,000千円】

事業概要

母子家庭などのひとり親家庭や、昨今の経済状況により困窮する家庭に育つ子どもたちが、塾や家庭教師などの有償学習支援を受けられず、高校受験などで「教育格差」が生じています。

この「教育格差」からの解消を目的として、学生ボランティアによって無償で高校受験のための学習支援を行う事業です。目標達成しやすい組織作り、メーリングリストや共有サイトの活用、学習支援のための教材や面談シートの開発で、効率よく指導できる仕組みを作っています。

事業の内容



## 事業の成果

本事業は、「日本の子どもの貧困」や「教育格差」という今まであまり日本社会で知られていなかった問題に正面から向き合い、それを克服する市民活動として、マスメディアにも多数とりあげられました（新聞 12 回、TV8 回等）。これにより、広く社会の人々に「日本の子どもたちの状況」や「国内の子ども支援」「教育支援」について考えていただくきっかけとなりました。

「自分たちの地域で同様の活動をしたい」という相談を多数いただいております、今後各地で同じ境遇にある子どもたちへの支援が広がるきっかけにもなりました。

また、困窮家庭ではインターネット環境がない、新聞等もとれないなど情報が行き届かないという点に気づき、そのようなご家庭に、私学助成金の案内等の有益な情報を積極的に届けました。

さらには、協力団体と相談し、冬場の栄養補給が必要な受験期間に合わせて「受験生応援パック」と称して食品を無償提供するなど、大変喜ばれました。

## 事務局のコメント

- 生活困窮世帯の子どもの学習支援ということで、それぞれの家庭環境等の事情により、勉強する意欲自体のない状態の子どもたちを、勉強する楽しさから教えていき、最終的にほとんどの子どもたちを進学へと持って行った点については、一定の成果があったと思います。
- また、成果を上げていくうえでの過程のなかで、困窮世帯における生活環境（ほとんどが母子家庭）の改善の一助としてもらうため、セカンドハーベスト・ジャパンに声掛けをし、食品提供を行うことにより、子どもたちの栄養管理や親との時間をより多く共有してもらうといった働きかけなど、様々な取り組みが行なわれていたことは、注目すべき点であると思われまます。
- 結果として、積極的にアピールをせずともマスコミからの関心が多く寄せられ、学生ボランティアの増や他地域における事業の広がり、行政からの関心等、多くの波及効果をもたらしていると感じました。
- 現在、セカンドハーベスト・ジャパンと連携しながら、被災地において事業を実施されているとのことですが、復興の過程のなかで大切な活動の一つであると思っておりますので、今後の活動にも一層期待しております。

## お問い合わせ先



〒103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋 KNビル 4階  
特定非営利活動法人キッズドア

電話 03-5201-3899 HP <http://www.kidsdoor.net/>